



ブラジル新時代 — 変革の軌跡と労働者党政権の挑戦 —

堀坂浩太郎編 勤草書房 2004年3月 2,800円 + 税

カントリー・リスクの指標となっている国債の спреッド（上乘せ金利）が低下し、ふたたび投融資のエマージング・マーケットとして注目され始めたブラジルだが、その政治、経済の実態となると遠方にあることもあって今ひとつわかりにくい。しかも昨年一月からは、政権の座を労働者党が担っているから「なおさら」の感が強い。本書は、そのブラジルの90年代後半以降の変革の足取りと現労働者党・ルーラ政権の政治、経済、産業、社会改革、外交を、長年、同国の動静を観察している大学やシンクタンク、貿易振興団体、企業のウォッチャーたちが分析した最新の著作である。

（堀坂）

編者・第9章

堀坂 浩太郎（ほりさか こうたろう）

1968年、国際基督教大学を卒業し、日本経済新聞記者を経て現在は上智大学外国語学部教授。新聞記者時代に特派員としてサンパウロに駐在。主な著書に『転換期のブラジル - 民主化と経済再建』（1986年）、『ラテンアメリカ民営化論 - 先駆的な経験と企業社会の変貌』（編著、1998年）、『ラテンアメリカ多国籍企業論 - 変革と脱民族化の試練』（編著、2002年）、『アジアとラテンアメリカ - 新たなパートナーシップの構築』（編著、2002年）などがある。

< 執 筆 者 >

第1章 労働者党ルーラ政権の誕生 吉原 多美江（よしはら たみえ）

1970年、大阪外国語大学スペイン語学科を4年で中退し、80年にリオデジャネイロのフルミネンセ連邦大学経済学部を卒業、その後リオデジャネイロ連邦大学（UFRJ）経済学修士課程などで勉学し、在ブラジル日系企業・団体で働く。現在は日商岩井鉄鉱石部コンサルタント。ブラジルの製鉄業や鉱業および政治経済情勢について定期的に分析レポートを発行し、経済や産業の専門紙・誌にも執筆する。

第2章 グローバル体質に変化したブラジル経済 竹下 幸治郎（たけした こうじろう）

1992年上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。ジェットロ（現、日本貿易振興機構）に入り経済情報部、サンパウロ・センターなどの勤務を経て現在は海外調査部中南米課課長代理。著書に『ビジネスガイド・ブラジル』（編著、2002年）、『ARCレポート ブラジル』（2001年版および2002年版）がある。

第3章 金融システム安定化への挑戦 長谷川 永遠子（はせがわ とわこ）

1990年に上智大学外国語学部ポルトガル語学科を卒業し、92年に同大学大学院修士課程（国際関係論）を修了、現在は大和総研金利為替調査部シニア・エコノミスト。日本証券アナリスト協会検定会員。98年から2000年まで外務省中南米第2課に出向し、自由貿易協定を含むメキシコの経済案件を担当する。主な著書として『これからのラテンアメリカ経済』（編著、1995年）がある。

第4章 変貌する産業と企業活動 桜井 敏浩(さくらい としひろ)

1965年慶応義塾大学法学部卒業。海外経済協力基金(現、国際協力銀行)でラテンアメリカなどへのODA借款業務に従事した後、日本とブラジルの合弁ナショナル・プロジェクトであるセニブラ(植林・紙パルプ製造)の日本側投資会社、日伯紙パルプ資源開発を経て、現在は同じく日伯合弁のアルプラス(アルミ製錬)、アルノルテ(アルミナ製造)の投資会社である日本アマゾンアルミニウム常勤監査役。拓殖大学政経学部講師。『日本ブラジル交流史』(共著。日本ブラジル中央協会 1995年)のほかブラジルに関する評論を多数執筆。

第5章 産業競争力のカギを握る中小企業 二宮 康史(にのみや やすし)

1997年上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。ジェットロ(現、日本貿易振興機構)に入り、その後、農水産部、山形貿易情報センターを経て、2003年3月からサンパウロ・センターにて調査業務を担当する。ブラジル経済一般から企業動向などの調査に従事し、ジェットロ発行の「通商弘報」などに執筆する。

第6章 「都市システム」の変容と地方分権化 山崎 圭一(やまざき けいいち)

1987年大阪外国語大学卒業。大阪市立大学大学院を経て現在は横浜国立大学経済学部教授。主な論文に「開発と地方自治 ブラジルにみる途上国の地方分権化」(土生長穂編著『開発とグローバリゼーション』柏書房、2000年)、「ブラジルにおける公共事業 産業基盤整備から住宅投資へ」(金澤史男編著『現代の公共事業 国際経験と日本』日本経済評論社、2002年)などがある。

第7章 教育開発と社会の変化 格差是正への取り組み 田村 梨花(たむら りか)

1994年に上智大学外国語学部ポルトガル語学科を卒業し、2002年に同大学大学院博士課程(地域研究)を修了、現在は同大学ポルトガル語学科専任講師。『ブラジルのコミュニティ教育 NGOによる教育活動の質的理解をめざして』(上智大学イペロアメリカ研究所ラテンアメリカ研究シリーズ、2001年)、「ブラジル都市貧困地域におけるコミュニティ教育」『ラテンアメリカ・レポート』2000年5月)などを執筆する。

第8章 積極外交への転換と多様化する交渉軸 子安 昭子(こやす あきこ)

1989年に上智大学外国語学部ポルトガル語学科を卒業し、94年に同大学大学院博士課程(国際関係論)を修了、現在は神田外語大学国際言語文化学科専任講師。主な論文に「ブラジル型福祉国家の方向性」(宇佐見耕一編『新興福祉国家論 アジアとラテンアメリカの比較研究』アジア経済研究所、2003年)、「リアルプランの7年間を振り返る カルドーゾ政権の社会開発プログラムを中心に」(『ラテンアメリカ・レポート』2001年11月)、「カルドーゾ大統領の外交戦略 なぜ南米の結束をめざすのか」(『Encontros Lusófonos』2001年)などがある。

第9章 メルコスールを核とした通商戦略 豊田 哲也(とよた てつや)

1993年上智大学外国語学部ポルトガル語学科を卒業。ジェットロ(現、日本貿易振興機構)に入り、その後、沖縄貿易情報センター、リオデジャネイロ事務所、海外調査部中南米チームなどでの業務に従事し、現在はカラカス(ベネズエラ)事務所長。ジェットロ発行の「通商弘報」、「ジェットロセンサー」などに執筆する。

